

でえもんじ
実りある年願う「大文字」

年 組 名前

箕輪町大出上村で、江戸時代後期から続く小正月の伝統行事が行われました。「大文字」とは何か、記事を読みとりましょう。

① 住民らが大文字と呼ぶ柱の大きさは、何メートルですか。また、集落内のどこに立てましたか。

大文字の大きさ―

柱を立てた場所―

② 大文字は、厄払いとして始まりました。集落ではかつて、何があったのですか。

③ 大文字の最上部には、何を付けましたか。

④ 問い③の他に、どんなものを飾りましたか。

⑤ 「今年も大文字ができてうれしい」と話す唐沢健吉さんは、今年の願いについて何と話しましたか。

⑥ 小正月は、いつのことをいいますか。また、あなたの住む地域では、小正月にどんな行事がありますか。調べてみましょう。

いつ―

あなたの住む地域の小正月の行事―

実りある年願う「大文字」

箕輪 小正月の伝統行事



立てた大文字を見上げる人たち

箕輪町大出上村おでむらの住民が9日、集落の平穏や豊かな実りを願い、「大文字」と呼ぶ高さ約10メートルの柱を集落内の道祖神のあるつじに立てた。江戸時代後期から続く小正月の伝統行事で町の無形文化財。約30人が集まり、松やササ、カラフルな小さい巾着で柱を飾り付け、縄で引いて立てた。

かつて大火や疫病があり、厄払いで始まったとされる。神事後、集まった人たちが太陽を意味する赤い板を最上部に付け、東に向けて立てた。「五穀豊穰」などと書いた「宝箱」や梅を模した飾りも取り付けた。柱は20日まで立て、その後は巾着や飾りを各戸で持ち帰って玄関などに1年間飾る。今年の当番7軒を取り仕切った唐沢健吉さん(70)は「集落の人が減って祭りの今後を考えないといけないが、今年も大文字ができてうれしい。新型コロナウイルスの感染者が日増しに増えている。みんなが無事に元気で1年を暮らせたい」と話した。

(2022年1月10日朝刊・地域面〈南信〉)

でえもんじ
実りある年願う「大文字」

解答例

年 組 名前

箕輪町大出上村で、江戸時代後期から続く小正月の伝統行事が行われました。「大文字」とは何か、記事を読みとりましょう。

①住民らが大文字と呼ぶ柱の大きさは、何メートルですか。また、集落内のどこに立てましたか。

大文字の大きさー約10尺

柱を立てた場所ー道祖神のあるつじ

②大文字は、厄払いとして始めました。集落ではかつて、何があったのですか。

【答え】 大火や疫病

③大文字の最上部には、何を付けましたか。

【答え】 太陽を意味する赤い板

④問い③の他に、どんなものを飾りましたか。

【答え】 松やササ、カラフルな小さい巾着

「五穀豊穰」などと書いた「宝箱」や梅を模した飾り

⑤「今年も大文字ができてうれしい」と話す唐沢健吉さんは、今年の願いについて何と話しましたか。

【答え】 みんなが無事に元気で1年を暮らせたらしい

⑥小正月は、いつのことをいいますか。また、あなたの住む地域では、小正月にどんな行事がありますか。調べてみましょう。

いつー 一月十五日、または一月十四日から十六日まで

あなたの住む地域の小正月の行事ー

略